

新潟ろうきん福祉財団 2025年度市民活動団体助成応募申込書

※10ポイント以下にしないこと。4ページ以内でおさめること。
ホチキスとめやファイルにとじない。両面、片面どちらでも可。

1. 団体概要

フリガナ	オチャノマテツガクテイ アニマンマ			
団体名 (法人格など省略せず、正式名称)	お茶の間哲学亭 あにまんま			
住所	〒953-0104 新潟(市・町・村)西蒲区岩室温泉166-2			
代表者	役職	代表	氏名	佐々木寛和
	携帯電話	070-1272-6181	固定電話	なし
問合せ責任者	役職	同上	氏名	同上
	携帯電話	同上	固定電話	同上
メールアドレス	ochanoma.anima@gmail.com			
設立年月	(1) 法人の場合 法人登記の日 年 月 日 (2) 法人格を有しない任意団体の場合 定款、規約を最初に定めた日 2024年2月29日			
団体種別 <input checked="" type="checkbox"/> してください	<input checked="" type="checkbox"/> 任意団体、 <input type="checkbox"/> NPO 法人・認定 NPO 法人、 <input type="checkbox"/> 一般社団法人、 <input type="checkbox"/> 一般財団法人、 <input type="checkbox"/> 労働者協同組合 (注: 前述に記載している以外の団体種別は、対象外)			
会員数	個人会員 5人、団体会員 人、その他会員種別 人			
年間の収支 (※直近のもの)	収入 (258,556 円) 主な収入 (助成金) 支出 (258,556 円) (内事業費 220,545 円、管理費 38,011 円)			
団体の目的	畜産体験や動物との交流を通して、自らの「命」や「食」を考える人のネットワークを構築すること。特に、子どもたちが日常的に動物と触れ合うことのできる居場所を提供し、畜産を通じて「子どものための哲学」を実践する。この活動は、結果として就農人口の拡大や、地域おこしに貢献できる人材の育成に寄与できるものとする。			
団体の直近の事業・活動の内容	・昨年度は団体設立初年度として家畜小屋を新設、触れ合いスペースを整備。 ・新潟市の「地域クラブ活動団体」に認定された。 ・地域クラブとして中学生5名の受け入れ、触れ合い体験を実施。 ・イベント「羊を食べる会」を実施。解体・調理を通して「食」と「命」を考える場を創出。参加者20名程度。 ・新たに5名の会員を迎え、会員交流会を開催。 ・新潟大学で講師として代表が招聘され講演を実施、活動を発信。 ・農の哲学カフェを共同主催し、畜産物(鶏卵)を提供。参加者10名程度。			
過去3年間の主な助成金実績	新潟ろうきん福祉財団 2024年度 NPO 等地域活動団体助成			
ホームページ	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある (https://www.animanma.com/)			
SNS	団体のアカウントがあるものについて <input checked="" type="checkbox"/> してください (複数可) <input checked="" type="checkbox"/> X (旧 Twitter) <input type="checkbox"/> Facebook <input checked="" type="checkbox"/> Instagram <input type="checkbox"/> LINE <input type="checkbox"/> その他 ()			

2. 応募事業の内容

<p>事業名 40文字以内で記載</p>	<p>もふもふ放課後居場所づくり事業</p>
<p>助成金申込金額</p>	<p>30万円（千円以下、端数切捨て：上限30万円）</p>
<p>応募事業の目的</p>	<p>本事業では、小中学生を対象に、畜産の重要性を伝えるとともに、自らの命が他の生命を「殺す」ことによって成り立っていることの重みを考える機会を創出することを目指す。また、既存の経済効率を最優先にする畜産とは違った、アニマルウェルフェアの視点に立った新しい畜産を知ってもらい、最終的には、地域の畜産振興に寄与することを目指す。</p>
<p>事業の背景・動機 本助成事業を考えるに至った背景や、なぜ団体が応募事業を行う必要があるのかを記載。</p>	<p>本団体の代表は、学生時代から岩室温泉地域における関係人口増加をめざし耕作放棄地で農業を行ってきた。なかでも、畜産は命そのものに直接触れるものであり、農を知るための第一歩として最適であり、小中学生への教育手法として有効だと考え、本団体を立ち上げた。設立初年度である昨年は、貴団体の助成により、家畜小屋を設置することができた。また、参加した親子から、定期的、継続的に放課後の時間を利用して動物と触れ合える場が是非ほしいとの希望が寄せられ、安全のため、また、アニマルウェルフェアの観点から、フェンスの設置が必要だと考えた。特に、令和8年から部活動が地域移行されるにあたり、地域の保護者からの「安心して子どもを預けられる場所がない」「習い事は経済的に負担が大きい」といった悲痛な声が寄せられており、放課後の居場所づくりは喫緊の課題だと考える。そこで、本事業では、昨年度のようなイベントのみならず、週1回でも放課後、子どもたちが気軽に立ち寄ることができ、畜産体験や動物との触れ合いができる居場所をつくることを目的とする。特にそのためにフェンス設置と家畜小屋の屋根修理の費用が必要であるため、申請する。</p>
<p>事業の内容 「いつ、どこで、なにを、誰に、どのくらい、どのように」事業を展開するのかについて、記載。また、これまで行ってきた事業・活動との違いとして、どの点が新しい試みであり、チャレンジなのかについて、記載。 備品を購入する場合、使用目的、用途、頻度、数量など記載。講座・研修などの場合、講師依頼団体や講師名など記載。</p>	<p>① フェンス設置、家畜小屋修理 について 昨年度は家畜小屋を手作りし、実際に中学生を受け入れることができた。しかし、手作りをしたために、工期が予想以上に遅れてしまい、他の活動スケジュールにも影響してしまった。安全性なども鑑み、フェンスは専門業者に依頼することとした。詳細は別途送付した見積もり書に記載。設置完了は7月中を目指す。</p> <p>② 動物と過ごす放課後の居場所づくり について 昨年度の活動を通し、子どもたちが動物と接する際の反応から、「怖い」「かわいい」「不思議」など、感性が大きく刺激されている様子が見られ、改めて本活動の教育的な意義を実感した。今年度は、恒常的に開かれている場を用意することで参加者の間口を広げることを試みる。また、一過性のイベントでは難しい、持続的な関係性を構築することを目指す。居場所として、屋内・屋外2つの空間を用意し、天候に左右される恐れをなくし、より多様な子供たちの参加を促す。加えて、会員から発案のあった「生き物教室」の実施についても検討を進めていきたい。</p> <p>実施期間：通年（4月～3月） 日時：月4回、曜日未定 料金：月謝1人2500円 対象者：小中高生</p> <p>会場 屋外会場：本団体の家畜小屋／屋内会場：「岩室シェアハウスとも家」 ※オンライン参加にも対応</p> <p>活動内容 屋内：「生き物教室（予定）」、料理、自習、お絵描き、 屋外：畜産体験（お世話、観察、日誌づくり）</p> <p style="text-align: right;">※次ページに続く</p>

	<p><u>参加人数</u> 各回 10 名程度</p> <p><u>ボランティア（敬称略）</u> 近隣住民（團原文雄、岡崎トシ など） 会員（佐々木寛和、滝沢日向子、竹内由貴、屯所康則、西方健人 など） 協力団体（岩室シェアハウスとも家、岩室中学校、岩室温泉地区自治会 など）</p> <p><u>活動に必要な備品</u> ホワイトボード、マーカー 1セット</p> <p>また、毎年行っている共同主催のイベントにも参加することができるようにする。 具体的には、以下のスケジュールに記載した。</p>
--	--

3. 応募事業のスケジュール等（2025年4月1日～2026年3月31日までの対象期間を明記する）

年月日	活動・事業内容など
2025年4月1日	◆放課後居場所リリース告知（SNS、岩室小学校、岩室中学校、移住空き家お茶会）
4月14日	開所（4月～3月に4回居場所開催。）
5月10・11日	田植え体験（共同主催）
6月中旬	梅干しづくり体験（共同主催）
6月末	フェンス・小屋 着工
7月中旬	フェンス・小屋 施工完了
8月中旬	◆「生き物教室」計画づくり・告知
8月下旬	◆「生き物教室」実施
9月	稲かり体験（共同主催）
10月	◆哲学カフェ 計画づくり・告知
10月下旬	岩室中学校 中学生受け入れ
11月	◆哲学カフェ 実施
2026年3月	報告書作成 ◆は今年はじめて独自に行うイベント

4. 応募事業の運営体制

<u>応募事業の運営体制</u> 応募事業について、組織内における具体的な役割担当者を少なくとも3名記載。	個人名	具体的な役割
	佐々木寛和	連絡、調整・全体統括 など
	竹内由貴	会計・事務手続き など
	滝沢日向子	イベント・広報 など

5. 応募事業の収支計画

支出

事業費項目	金額 (円)	内訳 (単価、人数、数量、回数等の積算根拠を記入)
① 物品・資材購入費	165,460 円	屋根の修繕費 150,000 (単管パイプ: 3m×15 本、4m×30 本、5m×3 本 など) セミナー開講用ホワイトボード一式 15,460 円
② 業務委託費	10000 円	資材運搬費 (5000 円×2 回 ガソリン代込み)
③ 講師謝金・研修費	円	
④ 印刷費	3200 円	放課後居場所 告知チラシ 200 部 2000 円 名刺 印刷 200 部 1200 円
⑤ 旅費交通費	円	
⑥ 通信費	円	
⑦事務・消耗品費	47,640 円	ニワトリ飼料 44,640 (1 コ 2480 円×1.5 コ×12 か月) 事務用品 3000 円 (会計用ノート 908 円、のり 682 円など)
⑧機材・施設等賃借料	48,000 円	放課後居場所 (全 48 回) 月 4000 円×12 ヶ月=48,000
⑨改修費	439,200 円	フェンスの設置 (見積もり書㊦)
⑩雑費	500 円	ボランティア活動保険 10 名分 500 円
⑪人件費 ※助成金額のうち 20%以内。	96,000 円	放課後居場所ボランティア謝金 月一人、8 千円×12 ヶ月
合計	810,000 円	

収入

項目	金額 (円)	内訳 (計算根拠)
① 本助成金	300,000 円	
② 他の助成金	300,000 円	にいがた NPO 基金 20 万 内田エネルギー科学振興財団 10 万 ドコモ市民活動団体助成 (検討中)
③ 本事業の収入 (見込み)	200,000 円	イベントの売り上げ 50000 円 大人 3500 円×10 人、子供 1500 円×10 人 放課後居場所 月謝 (4 月～3 月 全 48 回) 月 2500 円×12 か月×5 人=150,000 円
④ 寄付金	10,000 円	
⑤ その他の収入	円	団体自己資金
合計	810,000 円	

提出物チェック表とアンケート

チェック表

書類名	部数	申請者 チェック欄 <input checked="" type="checkbox"/>	財団事務局 チェック欄
市民活動団体助成2025年度応募申込書	1	提出あり (必須)	
定款、会則又は規約の写し	1	<input checked="" type="checkbox"/> 提出あり (必須)	
直近の事業年度の決算書 ※事業年度の時期によっては2024年度の決算が 終わっていない場合は、「直近」ですので、2023 年度決算書を添付してください。	1	<input checked="" type="checkbox"/> 提出あり <input type="checkbox"/> 該当なし	
見積書 ※1件で10万円以上の物品・資材購入費、業務委 託費、機材施設等賃借料などがある場合、添付して ください。	1	<input checked="" type="checkbox"/> 提出あり <input type="checkbox"/> 該当なし	
役員名簿※住所は不要、氏名のみの名簿	1	<input checked="" type="checkbox"/> 提出あり (必須)	
パンフレット、会報など※上限3点まで	1	提出あり <input type="checkbox"/> 該当なし	

アンケート※記載いただいた内容は選考とは一切関係ありません。

本助成金の情報をどこで お知りになりましたか？ (複数回答可 <input checked="" type="checkbox"/> をつけ てください)	<input type="checkbox"/> ろうきん財団からの郵便 <input type="checkbox"/> 新潟県労働金庫の本支店 <input type="checkbox"/> 中間支援組織から の会報やメーリングリスト等 <input type="checkbox"/> 市町村の市民活動等担当課からのお知らせ <input checked="" type="checkbox"/> 知人からの情報提供 <input type="checkbox"/> その他 ()
本助成制度を選んだ理由 を記入ください。	理由は大きく3つあります。まず、比較的小規模の団体であっても軽視され ることなく、活動内容の重要性に応じて正当に評価し、助成していただける ため。そして、助成金の申請がはじめてであっても、団体運営をサポートし てくれる制度があるため。(会計講座など) また、他の助成金では申請の難 しい経費の助成に関しても、担当の方が話を聞いてくださり、状況に応じて 柔軟に、迅速に判断していただけるため。以上の理由から貴団体の助成に応 募しました。